卓　　話

平成 25 年 3 月 12 日

「神　と　童」

橿森神社　宮司 大野順弘様

東日本大震災は二年の歳月がながれ

『清め花　海にむかいて　祓へども

今も返らぬ　みたまの叫び』

悲痛な気持ちになります

神社は・・・遠い昔から、感謝と祈りを捧げた場所です

人は人生の節目のなかで　家内は健やかに無病息災を願って参拝されている　私たちも今一度神社詣でや、家庭の神棚にお札を祀り心火の一灯を捧げたいものです

参拝の仕方について、一番大切なことは「童べ心」になることです

吉川英治作

『ここは心のふるさとか　そぞろ詣れば旅ごころ　うたた童にかへるかな』

作者が伊勢神宮に参拝された折り、宏大無辺な神のご加護と自然環境のなかを歩かれ、童心にかえったような嬉しさがこみあげてきたのではないかと思われます

祭りは「祓いに始まり、祓いに終わる」といわれます　この姿勢は神を敬うための作法です

再拝　二拍手　一拝の説明を伺っていると、全ての礼法に神宿る思いがいたします

＜「三社ものがたり」冊子贈呈あり＞